

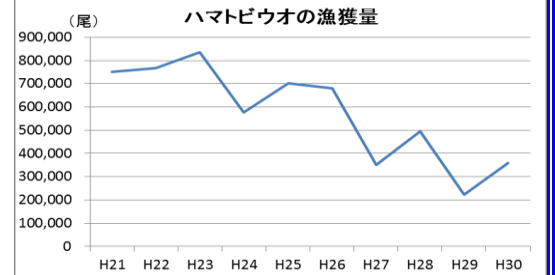
八丈島 水産だより 6月号 2018



2年に一度の祭典、東京愛らんどフェア「島じまん2018」が5月26、27日に開催されました。東京都の島々が一堂に会し、地元物産の販売や郷土芸能が披露されました。八丈島からは漁協女性部も参加し、トビウオ・マカジキ・メダイ・イワノリをのせた「島ずし」は大行列の人気で、約5000食を販売しました。島じまんの来場者数は、2日間で前回は上回る約10万9700人となりました。

■ 最近の漁模様

今年の特選漁が5月中旬で終了し、ここ数年で最も漁獲量が少なかった昨年よりは多くとれました。しかし過去の水揚げに比べると、まだまだ数が回復したといえる状況ではありません。一方、キンメダイの漁模様は昨年に引き続き好調のようです。最近では漁師さんが青ヶ島よりも南の遠い漁場まで行くことが多くなり、泊まり航海が増えて一日にまとまった量が水揚げされるようになりました。



■ 青ヶ島について



青ヶ島は東京から約350キロ南の海上にあります。切り立った崖の上に集落が点在しており、住人も約160名と日本で最も人口が少ない自治体となっています。青ヶ島では、陸上では黒毛和牛の子牛を出荷したり、島内で育てた「かんも（サツマイモ）」を使って「あおちゅう」と呼ばれる焼酎を作っています。漁業ではトビウオやキハダマグロなどがとれます。港は常に波が荒く、安全のため漁船は帰るたびに機械で宙吊りにし、陸に揚げて保管しています。